

## ユダの手紙から「にせ教師」について

### はじめに

2017年のみやま集会では、「聖霊」、「御国に関するたとえ話」、そして、前回は「神の選びと人の自由意思」をテーマとして学んできました。

聖霊については、三位一体の神の第3位格、聖霊とは、どういうお方なのか、聖霊のバプテスマや、聖霊の満たしとは、どういう意味なのか、について学びました。そして、御国に関するたとえ話では、メシアの王国が到来するまでの今の時代において信者と不信者とが区分されていくということを学びました。

これらの学びを通して、聖霊によって導かれて御国に到達する信者についての理解が進む一方、では不信者、特に新約聖書で警告されているように、地域教会の中に入り込む「にせ教師」といった人々は、どのような人を指すのでしょうか、という質問が出ました。

そこで、ユダの手紙に関するフルクテンバウム博士の本に基づいて、今回と次回の2回で「にせ教師」、そしてその次に「あざける者」について、全部で3回にわたり学びます。

1. 著者「イエス・キリストのしもべであり、ヤコブの兄弟であるユダから」(1節)
  - (1) 主イエスの異父兄弟
    - ① イエスは処女マリヤから聖霊によってお生まれになりました(マタ1:18)。
    - ② その後、マリヤは夫ヨセフとの間に、ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダという4人の男子を得ました。女子も少なくとも2人はいたようです。(マタイ13:55~56、マルコ6:3)
  - (2) イエスの兄弟たちは、イエスの復活の前は、イエスをメシアとは信じていませんでした(ヨハネ7:3~5)が、イエスが復活した後は、信者になりました(使徒1:14)。
  - (3) 兄弟たちの中でも特に、ヤコブは、復活の主に出会いました(1コリ15:7)。後に、ヤコブはペテロと並んで、エルサレム教会のリーダーの一人となり(使徒15:13)、ヤコブの手紙を書きました。
    - ① 「使徒」の条件は、第一グループの十二使徒に入るためにはイエスの宣教活動に同行したこと(使徒1:21~22)
    - ② 第二グループの使徒は、パウロやヤコブのように、イエスの宣教活動に同行はしていないが、復活の主に出会ったこと(1コリ15:8~9)
    - ③ ヤコブは使徒です(ガラ1:19)
  - (4) ユダは、自分を使徒のグループには入れていないので(ユダ17)、復活の主に出会っていません。彼は、結婚していて信者の妻といっしょに巡回伝道をしていたようです(1コリ9:5)。

## 2. 執筆目的 (2~3 節)

- (1) ユダは、信者たちが「ともに受けている救い」について手紙を書こうとしていました。信者すべてに共通する、あるいは共有する救い一般について、神学的な手紙を書こうとしていたのです。
- (2) しかし、「ある人々が、ひそかに忍び込んで来た」という問題が起きました。このある人々とは、ペテロの手紙第二で使徒ペテロが警告していた「にせ教師」(Ⅱペテ 2:1) です。
- (3) ユダは、ペテロが近い将来に起きると警告していたことが、現実になったために、緊急に信者たちにこの手紙を書きました。ユダが、ペテロの手紙第二で言われたことを 13 か所も引用しているのは、このためです。
- (4) 執筆時期は、紀元 67 年~68 年と推定されます。

## 3. 「聖徒たちにひとたび伝えられた信仰」(3 節)

- (1) 「ひとたび」**ギ**ハパックス 「1 回で完全に、1 回で決定的に」の意味
- (2) 「伝えられた」: 伝えたのは「使徒たち」(17 節) です。
- (3) 「信仰」には定冠詞が付いていて、「その信仰」。特定の内容の信仰を指します。
- (4) その特定の内容の信仰とは、使徒たちの教えです。
  - ① 使徒たちの教えは、新約聖書に書かれました。その教えは「ひとたび」で完成されていて、その後に別の新しい教えが出てくることはありません。
  - ② 新約時代の使徒と預言者の働きは完成して、終了しています。その完成された基盤の上に教会は築かれます (エペソ 2:2)。

## 4. にせ教師とは誰か (4 節)

- (1) 「このようなさばきに会うと昔から前もってしるされている人々」
  - ① 「このようなさばき」については、5~7 節で説明されるように、神はさばくべき者は必ずさばいて滅ぼします。にせ教師はそのような類の人々です。
- (2) 「不敬虔な者」= 神なき者たち、「私たちの神の恵みを放縱に変える」
  - ① 神なき者とは、不信者です。にせ教師は信者ではありません。
  - ② 「放縱」**ギ**アセルゲイアは、不道德、特に性的な問題。
  - ③ 「神の恵みを放縱に変える」= 自分たちの不道德な行いの言い訳に「恵み」を用いる。
- (3) 私たちの唯一の支配者であり主であるイエス・キリストを否定する人たち
  - ① にせ教師は、イエス・キリストの人格を否定します。たとえば、イエスは聖霊によって処女マリヤからお生まれになったこと、神が人となられたこと、私たちと同じように試みを受け苦しまれたが、罪は犯されなかったこと、十字架の死に至るまで父なる神に従順であられたこと、などを認めません。
  - ② イエス・キリストのわざを認めません。たとえば、イエスの十字架によってすべての人の罪は完全に贖われていること、私たちが救われるために何か行う

ことも多額の献金をすることも一切必要ないこと、などを認めません。

(4) まとめると

- ① にせ教師は、最終的に神の厳しいさばきを受けます。
- ② にせ教師は、信者ではありません。信者のふりをして信者の交わりの中に入り込みます。真の信者たちを不道德なことで誘い、誤った道に導きます。
- ③ 彼らは弁舌が巧みで、人を教えることが得意です。それによって、献金を受け取り、私腹を肥やします。しかし、その教えは、主イエス・キリストを否定するものです。

5. にせ教師の行動 (8～10 節)

(1) 肉体を汚す＝性的に不道德なことを平然と行う

- ① 「この人たちもまた同じように」：6 節の墮天使は創世記 6 章に記録された人間の女性との雑婚、7 節のソドムなどの町々は創世記 19 章にあるように同性愛、いずれも性的な罪です。
- ② 「夢見る者」：「夢見る」**ギ**エヌプニアゾマイは、「眠っているときに何かを見る」という意味で、預言的な夢を見るという意味です。にせ教師は、自分の不道德な行いを、そのように神から示されたというようなことを言って、正当化します。

(2) 権威ある者を軽んじる

- ① 原語では「権威を軽んじる」です。ここでは、人間の権威を指します。
- ② にせ教師は、他の人の権威の下に服することを嫌がります。
- ③ 特に教会の長老たちの指導に従いません。

(3) 栄えある者をそしる

- ① 「栄えある者」とは、天使です。
- ② 「そしる」**ギ**ブラスフェメオー 英 blaspheme ブラスフーム 不敬なことを言う、悪く言う
- ③ にせ教師は、天使を笑いものにする、あるいは悪く言います。
- ④ 9 節：一般天使の長ミカエルは、悪魔（元は、天使階級の最上位ケルビムの長）をそしりませんでした。これに対して、にせ教師は、天使よりも低い人間でありながら不遜にも、天使（悪魔や悪霊も含む）をそしります。
  - 「あえて相手をののしり、さばくようなことをせず」直訳「あえて彼はしなかった、さばきを、それが相手を悪く言うことになることを」

(4) 自分には理解できないことをそしる

- ① にせ教師は自称専門家です。本当は知らないことでも、もったいぶって話します。その場合、悪く言って否定することが多いようです。そうすると、よく知っているかのように、ふるまえるからです。

(5) わきまのない動物のように、本能によって知るような事からの中で滅びる

- ① 「知る」**ギ**エピスタマイ 動物的な知覚で認識することを意味する言葉です。

- ② 「本能によって」ギフシコース=身体的に・自然に ロマ 1:26 「自然の」
- ③ にせ教師が知ることができるのは、この世で見たり聞いたりすることで得られることだけです。この世は、悪魔が支配しています。そのような知識が、結局は彼らを滅びに至らせます。
- ④ にせ教師は、信者ではありません。信者が誤った教理によって迷っているというわけではないのです。にせ教師が信者のふりをして集會に参加する目的は、彼らの教えを広めるためです。

#### 次回のアウトライン

#### 6. にせ教師の特徴 (11~13 節)

- (1) 旧約聖書に記録された罪人たちとの類似性に見る特徴 (11 節)
  - ① カインの道
  - ② バラムの迷い
  - ③ コラのそむき
- (2) にせ教師たちに共通する類似性に見る特徴 (12~13 節)
  - ① 隠れた岩 (水面下に隠れた暗礁) ⇒ 船を難破させる、信者に「信仰の破船」をさせる
  - ② 恐れもなく自分だけを養う羊飼 ⇒ 羊 (信者) を食べ物にする
  - ③ 水のない雲 ⇒ 信者に空虚な約束をする
  - ④ 果実のない秋の木、二度死んで根こそぎにされる = にせ教師のさばき
  - ⑤ 海の荒波、自分の恥のあわをわき立たせる
  - ⑥ さまよう星、暗やみの暗黒 (火の池の暗黒) が彼らのために用意されている

#### 7. にせ教師のさばき (14~16 節)

- (1) エノクの預言 (14 節)
- (2) イエスの再臨の目的 (15 節)
  - ① すべての者にさばきを行う
  - ② 不敬虔な者たちが神を恐れずに犯した行為のいっさいについて
  - ③ 神を恐れない罪人たちが主に言い逆らった無礼のいっさいについて
- (3) にせ教師の性格 (16 節)
  - ① ぶつぶつ言う (信仰を持たないことのしるし)
  - ② 不平を鳴らす (いつも信者の欠点をさがして注意する)
  - ③ 自分の欲望のままに歩む (罪の性質に支配されていることの現れ)
  - ④ その口は大きなことを言う (信者たちを誘導し従わせるために、にせ預言者は、できそうな約束はしない。できなかったときに信者から疑われるからである。むしろすぐには成就しないような大きな偽りの約束をして、信者を期待させ、洗脳する)
  - ⑤ 利益のためにへつらって人をほめる